

千葉県議会超高齢社会調査特別委員会
高齢者の外出支援策に係る提言

本特別委員会は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、超高齢社会に伴う諸問題について調査することを目的に、令和元年5月の第1回臨時会において設置された。

今期の特別委員会では、超高齢社会を見据えた本市の現状を再認識するとともに、多くの課題の中から、「認知症に関する取り組みについて」及び「高齢者の外出支援策について」の2項目に絞り、重点的に取り組むほか、調査活動の参考とするため、先述の課題に対して先進的に取り組まれている鹿児島市と柏市を視察し、効果的な施策に関して知識を深めるなど、精力的に調査を行ってきたところである。

本市においては、「高齢者の移動に関するニーズ等調査」などにより、高齢者の移動支援に係る施策の検討を進めているところと承知するが、さらなる施策の推進に当たっては、交通不便地域の範囲を適切に把握するとともに、当該地域の利便性の向上につなげるための公共交通等の充実について、速やかに検討を進める必要があるものと考えている。また、高齢者が外出する際の負担軽減等に資するため、町なか及びバス停のベンチの設置についても引き続き取り組むなど、高齢者の目線に立った施策展開が必要であると考えている。

加えて、先進自治体の取り組みにおいては、デマンド交通の導入により交通不便地域の利便性の向上や経費の縮減が図られるなど、効果的かつ効率的な施策が展開されていることから、本市においても当該事例の調査研究を行い、可能な限り検討を進める必要があるものと考えている。

そこで、本委員会は、今期に設定した2つの重点取り組み項目のうち、特に「高齢者の外出支援策」に関し、デマンド交通をはじめとする地域公共交通網の充実等について、鋭意、調査・審議中の「千葉県公共交通網形成計画」や今後の施策への反映を強く求めるとともに、関連する事項のさらなる推進を求め、別紙のとおり提言を行うものである。

令和2年5月26日

千葉県議会超高齢社会調査特別委員会

提言事項

(高齢者の外出支援策について)

- 1 高齢者に対する移動に関する調査等の結果によるところ、高齢者が外出に対して不便と感じている地域が市内全域を対象に広範囲に及んできていることから、今後の施策推進に当たっては、単なる行政区割りで実施区域を定めるのではなく、適切に交通不便地域を特定することで、実情に即した地域ごとの把握に努め、地域間格差解消に意を用いること。
- 2 コミュニティバスについては、市民の日常生活における移動手段の確保策として効果があることから、さらなる市民サービス向上のため、交通不便地域におけるコミュニティバスの導入に向けた検討を進めること。
- 3 デマンドタクシーの活用により、高齢者をはじめとする市民の利便性の向上が期待されることから、他自治体の取り組みを参考に、本市におけるデマンドタクシーの効果的・効率的な運用について、実証実験の実施を含め検討を進めること。
- 4 持続可能な高齢者の外出支援策とするため、本市の規模に応じた合理的かつ透明性のある料金体系の検討や、地域公共交通網形成計画などの策定における見直し期間の設定、交通事業の選択に当たっては、民間事業者による自主事業化の可能性の検討などについて、適切に対応すること。
- 5 高齢者の外出支援は、高齢者の元気、活力の増進につながるばかりでなく、認知症の予防、ひいては医療費の削減等につながり、本市の財政にも寄与することが期待されることから、引き続き、庁内の関係部局等と連携を取りながら、高齢者の外出支援策の推進について尽力すること。